

なすび

第51号

目次

1p 年度末を迎えて
1p~4p 部活動、行事報告

今後の予定
編集後記

栃木県那須学園
〒329-2132
矢板市沢800
TEL 0287-43-0573
FAX 0287-43-6886
メール nasu-gakuen
@pref.tochigi.lg.jp
発行日 令和7年3月14日

～年度末を迎えて～

厳しい冬の寒さも和らぎ、梅の花もほころび始め、日ごとに春の訪れを感じられるようになりました。時が過ぎるのは早いもので、中学三年生は卒業のときを迎えようとしています。そして今年度も多くのこども達が那須学園を巣立っていくことでしょう。卒園生達が今後、健全で充実した生活を送れることを心から祈って、送り出します。

さて、園長先生が今年度末で退職となります。那須学園を見守って下さった園長先生に一年を振り返っていただきました。園長先生として、那須学園を支えていただき、ありがとうございました。



◎いま思うこと

園長 小野 好邦

栃木県職員として三六年間勤務してきました。児童相談所二三年（一時保護所一年）、当園七年。最初の職場は身体障害児者の施設も併設されていたのでそこも含めれば施設経験は十三年になります。こどもが施設で生活するということが、どういうことかをわかりたくて、平成十六年に初めて当園にて勤務することになりました。でもいまだに「こどもが施設で生活するということ」についての明確な理解はできていません。今も昔も、広く捉えれば他者の権利を侵害したこどもが当園に入所してくることは少なくありません。自分自身を傷つけ自分自身の権利を侵害して入所してくるこどももいます。そして入所してくるこどもはどこかで権利侵害を受けてきていることが多いような気がします。このような経験の積み重ねが人を傷つけ自分を傷つけることにつながっていきます。被害者が加害者になることは往々にしてあります。寂しさからか盛り場であてもなく刹那的にその場を楽しむことを繰り返し自分自身が被害者

になることもあります。

我々もこども達が行ってきた権利侵害について注目しなければなりません。と同時にこどもたち自身が受けてきた権利侵害についても思いを巡らせなければなりません。

話は変わりますが、年度がスタートしますと、当園、分校分教室、両者の共催行事が少なくとも月に1度は入ってきます。職員も大変だけれどこども達も大変です。大変だけれど結構楽しんでいきます。その結果関係協主催の各大会では賞状をいただいたものもありました。が、そうでないものもありました。その結果に一喜一憂します。こども達が悔し涙を流すと、それを見ている職員も泣けてきます。こどもも職員も頑張った結果です。

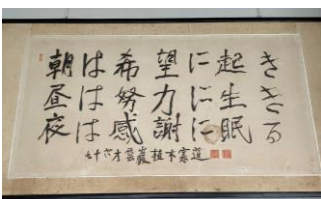
スポーツが動なら吹奏楽は静でしょう。去年の夏頃は楽器をうまく演奏できなかった、音も出ていなかったこどももいましたが、練習を重ねるうちに、発表を重ねるうちに、段々上手くなってきました。先日地域の人やボランティア活動で当園を支えてくれる方々への感謝の形として、吹奏楽演奏会を行いました。夏とは全然違います。素人の私にもわ

かります。こどもたちと職員が一緒に一生懸命楽曲を奏でます。そのことが美しい。"for you"ではなく、together with you. というこの成果でしようか。

児童自立支援施設の仕事は分校分教室の教職員や措置機関の児童相談所、原籍校、保護者、地域の方々等と当園職員との協働子育てだと思えます。頭が下がります。こども達も、作業、勉強、部活に取り組んでいます。職員は是非々々でこどもと対峙します。こどもと大人の真剣なやりとり。その光景を見ると、こころが動かされます。

当園の園長を仰せつかってから一年が経過しました。その役割はきつと果たせていなかったのだろうと思っています。

職員がこどもに「感謝の気持ちはきちんと伝えなければダメだ」と言っている光景を目にすることがあります。今は私の方からこども達や支えていただいた皆様方に、ありがとうございます。そして来年度的那須学園へのご支援をよろしくお願い致します。



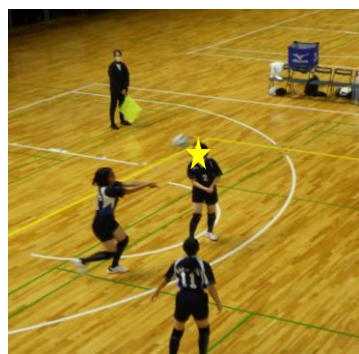
★部活動報告★

★バレーボール部

今年度の女子バレーボール部の集大成となる第二五回関東女子バレーボール大会が、十〇月二四日に群馬県にあるALSOKぐんま総合スポーツセンターで開催されました。大会では、部員五名全員で出場し一生懸命プレーしてることができました。

午前の部は予選リーグでした。緊張から練習通りのプレーが出来ず仲間同士でのトラブル（意見交換？）もありましたが、一セットも落とすことなく終えることができました。午後の決勝トーナメントでは、なんとか決勝戦まで残り、埼玉学園さんとの対戦となりました。練習試合では良い試合が出来ていたこともあり皆気持ちに余裕がありましたが、いざ試合が始まると決勝戦の雰囲気になれ緊張からミスを連発し、お互いの声かけができなくなっていきました。結果はストレート負けとなり、準優勝で大会を終えました。優勝を目指していたこともあり、悔しさが残る結果となりましたが、これまで練習で取り組んできたプレーや声かけ、挨拶、ボールに向かう姿勢などは披露することができたと感じます。また、チームの目標のひとつであった「責任感を持つて役割を果たそう」という目標は、大会での振る舞い、

これまでの練習過程の中で部員それぞれが体現していくことができたのではないかと考えます。



★吹奏楽部

後期の吹奏楽部は、クリスマス会と感謝の演奏会に向けて取り組みました。クリスマス会に向けて、新たに二曲、そしてハンドベルにも取り組み、男子チームは「赤鼻のトナカイ」、女子チームは「きよしこの夜」を演奏しました。吹奏楽とハンドベルの練習を並行して行ったので、部活動の時間があつという間に過ぎていきました。特にハンドベルは、お互いの音を聴きフォローをしながら、皆が真剣な表情で取り組む姿が印象的でした。

今年度最後の発表は感謝の演奏会でした。今年度の総まとめとして、これまで演奏した曲に加え、パート発表のために挑戦する曲、アンサンブルチームの演奏曲と、準備期間は短かったのですが、部員一丸となって取り組みました。パート発表では、

こどもたちが中心で発表原稿を考え、選曲したこともあり、本番の発表では一人一人の気持ちが伝わりました。どちらも、こどもたちが力を発揮した素晴らしい演奏会となりました。

★卓球部

「思いやり」「力のコントロール」様々なことに意識を向ける」この三つを日々の卓球部の中で意識持たせながら取り組んできました。昨年度の経験児童がほとんどいない中で、基礎基本の練習を地道に積み重ねてきました。どんな練習でも児童は前向きに取り組む様子が見られ、少しずつ力を付けてきました。十一月の茨城学園とぐんま学園との練習試合では、大会前の力試しと緊張感を味わうべく、練習試合に臨みました。自分たちの力が十分通用することが各々感じることが出来たことで、大会本番までの練習にもより真剣さが感じられていました。卓球大会本番ではそれぞれの児童が自分のベストを出して奮闘しましたが、団体戦三試合中二試合を競り負けるという悔しい結果となりました。卓球部では技術だけでなく、生きていく上で大切なことを教えていったつもりです。日々の練習に参加してくださった先生方、大変お世話になりました。

★行事報告★

★収穫感謝祭

十一月一四日

那須学園では、年間を通して、田植え稲刈りを始め、畑の手入れや収穫を経験しています。季節折々に収穫された野菜や果物をいただいたのですが、毎年秋に収穫感謝祭を開催します。今年も十一月一四日、秋晴れの中、餅つきと食事をを行いました。学園で収穫されたもち米を使った餅つき、小学生の野菜クイズ、会食と、こどもも職員も一緒に楽しいひとときを過ごしました。

餅つきは、臼と杵を使って、寮ごとに自分たちで食べる餅をつきました。臼と杵を使って餅にする過程は、初めて経験することで、杵の重さや、お米の熱さ、つきたての餅の弾力など、こどもたちがそれぞれ驚いたり発見したりする様子が印象的でした。会食の前に、日頃、農場で作物を



管理している職員や給食担当の方へ感謝を伝えて、皆でつくたてのお餅をいただきました。収穫感謝祭を通して、命の大切さや、毎日の食事が沢山の方の手を経ていることを学んだ時間となりました



★修学旅行（中学三年生）

十一月五日～七日

二泊三日の修学旅行では、奈良・京都の歴史にじっくり触れる時間を持つことができました。初日は、東大寺で大仏の圧倒的な存在感に心を静められ、続く春日大社では深い森の気配に包まれながら参道を歩きました。こどもたちが鹿に餌をあげた時の近さと優しい眼差しは、奈良という土地の穏やかさそのもののようでありました。興福寺では、千年以上前から続く祈りの時間に思いを馳せました。

二日目は、タクシーで京都各地を巡り、伏見稲荷大社の朱の千本鳥居をくぐると、静けさの中に凛とした空気が流れていました。清水寺では舞台から街並みを見下ろし、南禅寺や銀閣では庭の奥に潜む「余白の美」に引き込まれました。金閣の輝きと、

平等院の優雅な姿にこどもたちもその迫力に驚嘆していました。最後に、八つ橋作りを体験し、素朴な甘さに旅の余韻を残しつつ帰路につきました。紅葉はまだ二割ほどでしたが、その控えめな色づきが、古都の静かな時間を引き立てていました。



★修学旅行（小学六年生）

十一月二七日～二八日

今年度は、十一月二七日から二八日にかけて、鎌倉と東京方面へ修学旅行に行ってきました。初日は鎌倉を訪れ、かつて武士が活躍していた地を歩きながら、歴史的な建造物を見学しました。実際に目で見て感じることで、教科書だけでは分からなかった当時の人々の暮らしや時代の様子を想像することができ、歴史への理解がより深まりました。

二日目は、東京へ移動し、バスを利用して浅草と東京スカイツリーを見て回りました。昔ながらの町並みや賑わいが残る浅草と、最先端の技術が集まった東京スカイツリーは、それぞれの魅力があり、とても印象に残りました。両日とも多くの人で混雑しており、帰りのタクシーでは

疲れた様子が見られましたが、現地の美味しい食べ物を味わい、たくさんのお土産買うことができ、学びと楽しさの詰まった修学旅行となりました。



★クリスマス会

十二月二日

十二月二日にクリスマス会が行われました。保護者や児童相談所の方などを招待し、各寮の出し物の発表や吹奏楽の演奏を披露しました。

各寮の出し物は、限られた時間の中で各寮の色を存分に発揮し、頑張って準備してきた成果を見てもらうことができました。また、ステージでの発表に皆緊張が見られましたが、堂々と演技する姿からこどもたちの成長を感じることもできました。吹奏楽の発表では、関東少年文化祭に続き貴重な発表の場となりました。保護者の中には楽器を吹く姿に感動され、涙する方もいらっしゃいました。こどもたちを囲み、会食をしながら

が楽しい時間を過ごす素敵なおクリスマス会になりました。

★席書大会

一月八日

「全集中、筆の呼吸！」そんな声がかきこえてきそうなほど、新春の教室は暑い静寂に包まれました。正月明け恒例の席書大会。冬休みの緩んだ空気を引き締めるのは、やはり墨の香りと白紙にむかう緊張感です。

一年生は「不言実行」で己を律し、二年生は「初志貫徹」で軸を固め、三年生は「切磋琢磨」で板貝の高見を目指す。

スマホ画面をタップするのは違う、やり直しのきかない一発勝負。書き終えた後の生徒たちの清々しい表情が、何よりの快作の証です。会議室前に並んだ個性豊かな「志」の数々を眺めながら、私も毎朝、己の気を引き締めています。

★スキー教室

一月六日・二三日

二日間とも天候に恵まれ、絶好のコンディションのもと実習を行うことができました。今回も二班編成で実施し、インストラクターの先生方からは、スキーの技術はもちろん、安全面やマナーについても規律ある熱心なご指導をいただきました。初めは、寒さと緊張感の中で生徒たちの表情も硬く、動きに戸惑う様子も見

られましたが、先生方の丁寧な指導に応えようと真剣に取り組むうちに、徐々に恐怖心を克服していききました。厳しさの中にも確かな上達の手応えを感じ、時間を追うごとにスムーズに滑れるようになっていく姿が印象的でした。

事後の振り返りでは、多くの生徒が「上手に滑れるようになって楽しかった」と記述しており、真剣に取り組んだからこそ得られる達成感とスキーの面白さを十分に味わえた有意義な実習となりました。



★立志式

二月二日

「理想の大人像に近づくために何をしていくか」ということを大きなデーマに据えました。生徒たちは初め、考えることにさえ苦戦していました

が、作文を書き上げる過程で少しずつ考えがまとまっていったようです。作文の読み練習では、個人で繰り返し練習したり、全体でお互いの発表を聞き合ったりしました。原稿用紙に「ゆつくり」「こは強く」などの読み方メモを書いたり、聞き手を巻き込むような工夫を考えたりなど、発表をより良いものにしていう意識が形として表れていました。式本番では、緊張しながらもそれぞれが思い描く大人像を一生懸命に伝えようとしていた姿がすばらしかったです。



★マラソン大会・駅伝大会

二月六日

今年度は天候に恵まれた中、マラソン大会が開催されました。別日に設定した駅伝大会は感染症流行のため中止となりましたが、その分、一人一人が全力を注ぎ、熱い一日となりました。

今回の行事にあたり、マラソン部では「あいさつ・返事・整理整頓」の三つの柱を目標に掲げました。行事は当日の頑張りだけでなく、こうした日頃の積み重ねが土壇場の強さに繋がるからです。レース中は、何度か挫けそうになる瞬間があったと思います。それでも最後まで諦めずに走り抜く姿には、見る者の心を打つ力がありました。その結果、多くの生徒が練習の時よりも良いタイムを記録することができました。

苦しい時こそ、周りへの感謝と基本の行動を忘れない。三つの柱を胸に、限界まで挑戦した姿は実に立派でした。大会の成功に心より感謝申し上げます。



今後の予定

- 三月 十〇日 卒業を祝う式
- 三月 十三日 じゃがいも植え
- 三月 二四日 修了式

編集後記

桜の開花が聞こえはじめる三月ですが、まだ寒い日が続きます。なすび編集のためにこどもたちの写真を見返したところ、行事で見せる笑顔や大会での真剣な顔など様々な表情の写真があり、こどもたちはこんなにも表情豊かに生き生きと生活していたのかと心に響くものがありました。なすびでは表情までをお伝えできないのが残念です。

本年度も様々なご支援・ご協力をいただき、本当にありがとうございました。那須学園のこどもたちは皆様に見守られながら、元気に過ごし、日々の頑張りが少しずつ成長に繋がっています。今後もこどもたちにあたたいご声援をよろしくお願いいたします。

育成課 関・越沼・大森